

平成 28 年度 【 学園研究費助成金 < B > 】 研究成果報告書

学部名 文化情報学部

フリガナ フリガナ トモコ
氏名 福永 智子

研究期間 平成 28 年度

研究課題名 日本文学関係和書のデジタルライブラリ化についての基礎的研究

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	福永智子	文化情報学部	教授
研究分担者	飯塚恵理人	文化情報学部	教授
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

本研究は、古文書等の図書資料を①分類、②デジタル化、③アーカイブ化し、さらに④インターネットを用いて発信するための基礎的な「型」を作ることを目的とする。大学において所属する教員の研究成果をネット上で公開する「機関リポジトリ」は、研究成果・研究情報を広く社会に公開することとなり、その大学の学術・社会への大きな貢献となる。大学の成果物を公開する「機関リポジトリ」と、「デジタルライブラリ」は共に各大学の図書館が管轄することが多いが、システムやデータベースとしては別々に構築することが主流となっている。本研究では、本学資料に適合した「デジタルライブラリ」の基礎部分を構築したい。

2. 研究方法等 (300 字程度で記述)

・他大学・公共図書館等における資料の保存・活用、デジタルライブラリ構築の方法を調査する。(福永担当)

・「古文書実習」の教材としてふさわしいと考えられる江戸時代の御家流書体で書かれた版本をデジタル化し、その解題を執筆してデジタル化版本画像と共にデジタルライブラリに公開する。(飯塚担当)

本研究は図書館情報学(福永)と文献学・日本文学(飯塚)という全く領域の異なる研究者が共同して、本学の所蔵品に対応した「デジタルライブラリ」の構築を行う点で大きな特色がある。「デジタルライブラリ」は、所蔵する物品により見せ方が異なるので、大学ごとに仕様が異なっている。本学に合った形で情報発信の基礎を作ることが出来る点が本研究の特長である。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

本学名誉教授梅野きみ子先生所蔵の「絵入源氏物語」巻35から巻43を高画質で撮影することが出来た。現在、これを椋山女学園大学図書館のデジタルライブラリより配信することが出来るように、ホームページの作成を、本学現代マネジメント学部准教授三木邦弘先生に依頼して制作中である。またこの解題を所蔵者の梅野きみ子名誉教授の指導のもと、飯塚が執筆する予定で準備をしている。(飯塚担当)

また図書館のマイクロ資料について、劣化の度合いを把握し、一部保存対策を実施した。全マイクロ資料から収納ケースごとにサンプリングし、目視と劣化臭の確認によって調査した結果、一部のマイクロ資料に劣化が認められた。保存対策の緊急性が高いと考えられる「読売新聞マイクロフィルム版」の該当フィルムと「中外日報マイクロフィルム版」および、「狩野文庫マイクロ版集成」計1,054本のリールについて、フィルム全体の精査と、フィルムの巻き取りを手作業で実施した。作業にはリワインダーを使用することで、目視をしながらフィルムを新鮮な空気に触れさせて悪いガスを外へ出し、寿命を延ばすことができた。「狩野文庫」の劣化原因の一つは各フィルムがプラスチックケースに収められていることにあるため、吸湿機能がある中性紙の紙箱に変更するとよいと考えられる。デジタル化の可能性については、技術的にはマイクロフィルムの切れや波打ちがないため可能である。権利関係は、著作権法31条により「図書館資料の保存のため必要がある場合」に複製できるが、原本廃棄が原則となる。本学のマイクロ資料はまだ問題なく使えるうえに高価なため、廃棄は難しい面がある。さらに、マイクロ資料の多くは現在も市販され、発行元では劣化した資料と新品を有償で交換するサービスもあることから、マイクロ資料のデジタル化は難しいと判断された。(福永担当)

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①リポジトリ	②アーカイブ	③源氏物語	④和書
⑤ネット発信	⑥マイクロ資料	⑦資料保存	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

・福永智子「マイクロ資料の合理的な保存方法の検討」、椋山女学園大学文化情報学部「椋山女学園大学文化情報学部紀要」第16巻、2017年3月発行予定印刷中

・飯塚恵理人「中津川市菅井家所蔵 松本長・高浜虚子短冊および松本長筆菅井大作宛て年賀状について」、椋山女学園大学文化情報学部「椋山女学園大学文化情報学部紀要」第16巻、2017年3月発行予定印刷中

・飯塚恵理人「戦後東海地域古典芸能資料の紹介—写真から伺える能楽・箏曲愛好者の実際—」、椋山女学園大学椋山人間学センター「椋山人間学研究」第12号、2017年3月発行予定印刷中

・飯塚恵理人「『野宮』試解—間狂言本が示す世界—」査読あり(依頼原稿)、紫明の会「紫明」第40号、2017年3月発行予定印刷中

なお次年度は絵入源氏物語の残りの巻のデジタル化を終了させることと、和書のデジタルアーカイブのメタデータ付与の方法について検討したいと考えている。